

日光医療センター通信

～いろは～



第 53 号

2026.1



田母沢御用邸記念公園（栃木県日光市）

主な内容

日光医療センター専用ロゴマークの決定	2
診療紹介（消化器内科）	3
部門紹介（診療情報管理室）	4
3階東病棟における新たな取り組み	5
外来担当医一覧	6
連携医療機関認定病院紹介	7
日光医療センター Facebook の紹介 / 求人情報 / 編集後記	8



日光医療センター専用ロゴマークの決定について

当センターブランディング戦略の一環として「日光医療センター専用ロゴマーク」の作成を企画し、教職員・常駐業者を対象に募集をしておりました。

応募された21作品の中から厳正な審査の結果、下記の2作品（各2色）を当センター専用ロゴマークとして決定したのでご紹介いたします。

作品1 ▶



■ロゴマークに込めた意味や思い

このたび、当センターのロゴマークとして私の制作物をご採用いただき、心より感謝申し上げます。この場をお借りして、本ロゴマークに込めた思いをご紹介させていただきます。

私は、日光東照宮に祀られる徳川家康公にとって人生最大の危機であったとされる「三方ヶ原の戦い」が行われた土地の出身であり、また私自身の名前に家康公の一字をいただいていることもあり、このたび当センターに赴任させていただき、なおかつ今回のロゴマーク制作の機会をいただけたことに、不思議なご縁を感じております。

ロゴマークの制作にあたり、日光を象徴する「三つ葉葵」をモチーフに採用しました。三枚の葵の葉は、当センターが位置する“日光”という地の魅力を象徴するとともに、当センターが大切に育んでいくべき三つの柱 — 「診療」「教育」「研究」 — を表現しています。それぞれの葉が互いに支え合い、調和しながら一体となるような造形とすることで、センター全体が同じ方向を向き、地域医療に貢献していく姿勢を示しました。また、デザイン全体には、獨協学園グループの一員としての誇りを込めつつ、当センターが地域に根ざしながら独自の発展を遂げ、新たな価値を創出していくようにとの願いを込めました。大学の理念と日光の歴史的象徴を調和させることで、「日光医療センターらしさ」が未来へと受け継がれていく印象を持たせることを意図しています。

このロゴマークが当センターの歩みを象徴し、地域の皆様に親しまれるとともに、教職員一人ひとりが誇りを持って未来へ進んでいくための旗印となれば、制作者としてこれ以上のよろこびはありません。今後とも、当センターが地域医療の発展と大学の使命達成に向け、さらに大きく飛躍していくことを心より願っております。

心臓・血管・腎臓内科 主任教授 前嶋 康浩

作品2 ▶



■ロゴマークに込めた意味や思い

この度はロゴマークを採用していただき、とても嬉しく感じております。私がロゴマークの作成

にあたって意識したのは“使いやすさ”です。誰が見ても分かりやすく、長く親しんでいただけるようなデザインになれば良いなという思いで作成しています。また、病院名をすべて取り入れているので複雑な印象にならないよう工夫しました。院内でも使用されているNMCという略称を目立つようにしていますので、より一層親しみやすさが増していると感じております。一目で日光医療センターであることが分かるようなデザインになっていると思いますので、皆さまに幅広くご活用いただければ幸いです。

医事課 事務員 粉 美緒

診療紹介 シリーズで当センターの診療内容についてご紹介いたします。

▶ 消化器内科

消化器内科では、食道、胃、大腸など「消化管」疾患と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、つまり「肝・胆・膵」疾患の診療を行っています。

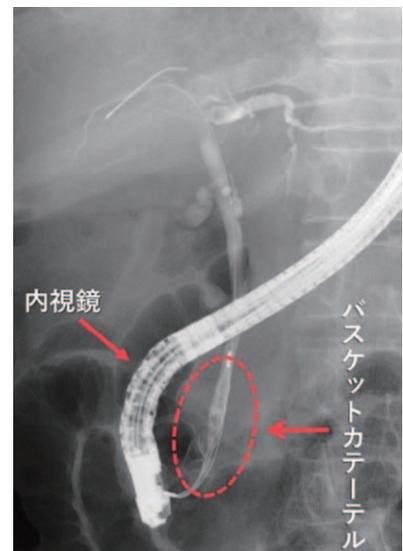
「お腹が痛い」「胸やけがする」「便が出にくい」などの症状から、「身体診察」、「血液検査」、「上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）」、「大腸内視鏡検査（大腸カメラ）」、「腹部超音波」、「CT」、「MRI」などの必要な画像検査を行っていきます。

また、膵臓や胆管をもっとも細かいところまで見ることができる「超音波内視鏡検査」も日光地区で唯一うけることができます。造影CTやMRIではわからない「胆管結石」や「膵腫瘍」を見つけることができる内視鏡検査です。さらに超音波内視鏡を使用して膵臓の「生検」を行うこともできます。胆管結石は胆嚢結石とは異なり、黄疸の原因になるため、あるだけで治療適応になります。見つかった場合には、「側視鏡」というこれまた専用の内視鏡を使って外科手術でお腹を切らなくても胆管結石を取ることができます。

大腸や胃のポリープ、早期癌に関しても当センターでできる限り治療しています。当センターでの対応が難しい場合には、患者さんのご希望（なるべく車の運転がしやすいところがいい、症例数の多いところに行きたいなど）に合わせて県内外の病院をご紹介します。

新患で「胃が痛い」と受診されても、胆嚢炎だったり、膵癌だったりすることがあります。問診と血液結果だけでは見逃してしまう危険のある病気に対して、できるだけ「早く診断」をつけ、「早く治療」を開始するため、病院の機動性を生かして、予約ではなくその日のうちにCT検査等までできてしまえることが当センターのよいところです。例えば膵癌は受診から膵生検（最低2泊3日の入院要）まで1週間以内に行うことを心がけています。とりあえず診断は近くて便利な当センターで、治療は〇〇病院で、というときにはすべての検査結果をお渡しし、ご希望の医療機関にご紹介しています。

これからも地域の拠点病院として、皆さまの消化器疾患の診断、治療と一緒に頑張っていきたいと思っております。



部門紹介 シリーズで当センターの各部門をご紹介します。

▶ 診療情報管理室

診療情報管理室は、患者さんの大切な診療情報を適切に管理・点検し、医療の質の向上を担っています。現在職員は、室長（医師）及び4名の事務員で業務を遂行しております。

平成18年4月開院当初より電子カルテが導入され、診療情報は基本ペーパーレス運用となっておりますが、ペーパーレスにできないX線フィルム、CD-ROM、心電図、他施設からの紹介状や報告書等、患者さんからの検査や手術に関する承諾書や同意書等の文書は、電子カルテに取込み（スキャナ）しています。患者さんの診療記録は、一定の期間保管することが義務づけされております。診療情報管理室では、これらの診療に関わる大切な院内の診療記録関連の全ての文書等を管理・保管をしています。珪肺労災病院から引き継いだ、じん肺患者の外来・入院診療録、X線フィルム、心電図等の諸記録も一元管理しています。

また、DPC導入に伴う提出データの作成・点検や栃木県がん治療中核病院の指定を受け、院内がん登録業務等を行っています。全国がん登録・国立がん対策情報センターへがん情報の届け出・データ提出を行っています。

【主な業務内容】

- ・病歴類の点検、搬送業務
- ・入院診療要約書（サマリー）の未整理分の依頼、確認報告
- ・紙媒体の病歴類等及びX線フィルムの管理
- ・紹介状・報告書・各種承諾書・同意書等の管理
- ・疾病統計に関する業務（ICD疾病別統計）
- ・DPCに伴う提出書類（様式1）の作成・点検
- ・院内がん登録
- ・その他病歴類に付随する業務

【最後に】

診療情報管理室の職員が、直接患者さんと接することはありませんが、診療を側面からサポートすべく業務を遂行しております。今後も、退院サマリー作成率の向上やDPCの監査等、医療の質向上に努め、地域住民を守る病院として、医師・看護師等と連携を取りながら、患者さんのサービス向上に取り組んでまいります。

3階東病棟における新たな取り組みについて



令和7年8月1日より、3階東病棟では、患者さんの回復を多角的に支える新しい取り組みを開始しました。

入院中の生活動作（ADL）の低下を防ぐため、入院の早い段階から

- ▶ 口腔機能評価とケア
- ▶ 栄養状態の評価と改善
- ▶ リハビリテーション

を総合的に行う包括的なケア体制を構築いたしました。

これまで別々に行われていたこれらの取り組みを、多職種が連携して一体的に提供することで、より効果的な回復支援が可能になります。この体制実現のため、専従のリハビリスタッフを配置し、土日・祝日も含めた切れ目のないリハビリ提供体制を整えました。このような高い水準の体制を整えている病院は、全国でも約1割にとどまっています。

また、口腔機能に問題がある方には、かかりつけや近隣の歯科医院の受診を積極的にお勧めし、地域全体で医療・歯科・薬局が連携したサポート体制を築いてまいります。

私たちは、多職種が力を合わせ、3階東病棟に入院されるすべての患者さんに、この包括的なケアの恩恵が届くよう全力で努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※なお、この取り組みに伴い「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」の算定を開始しております。

連携医療機関認定病院紹介 富塚メディカルクリニック

富塚メディカルクリニックは令和7年10月1日で、開院21周年を迎えました。そして昨年4月より、息子の富塚崇史（内科専門医、リウマチ専門医+指導医、医学博士）が副院長として診療しております。現在、内科専門医、外科専門医、整形外科専門医、透析専門医、腎臓専門医、リウマチ専門医、血液専門医、呼吸器専門医、循環器内科専門医、神経内科専門医、リハビリテーション専門医など、計16人以上の非常勤医師と常勤医2名の体制で診療を行っております。

当院には、血液自動分析装置、血液ガス分析装置、呼気CO / NO濃度測定検査などがあります。また、胃／大腸のレーザー内視鏡、眼底カメラ、眼圧検査装置、聴力検査装置、呼吸機能検査装置、血管年齢測定装置、脈波検査装置、（頸部、腹部、心臓、乳腺、血管、関節エコーなど）超音波診断装置3台の他、一般X線診断装置、骨塩定量検査装置、CTスキャン、MRI装置も有しており、迅速な画像診断ができます。さらに院内薬局を採用しております。また、30床の透析ベッドを有し、19床の入院施設もあります。駐車場は100台以上のスペースがあります。コロナ検査のためのプレハブが設置されており、発熱外来は、プレハブの中、もしくは、自分の自動車の中にて診療しております。

獨協医科大学日光医療センターには、当院からのさらなる加療の必要となった患者さんをいつも早急に優しく対応して下さり、心より感謝しております。当院も、優しさをもって接し相手の身になって対応できる医療、「真心医療」を理念に掲げ、優しいクリニックであるように心がけております。これからも日光医療センターとさらに連携を

深めてまいりたいとおもいます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



富塚 浩
富塚メディカルクリニック 院長
医学博士

日本内科学会 総合内科専門医 平成30年度評議員
日本血液学会 血液専門医
自治医科大学 非常勤講師



日光医療センター Facebookの紹介

日光医療センター Facebookページは、開設から3年目を迎え、地域の皆さまに当センターの紹介記事をお届けしてまいりました。

医療従事者しか入れない場所や患者さんに知ってほしいことなど、様々な情報を分かりやすく発信していますので、ぜひ「いいね！」や「フォロー」をしていただけますと幸いです。

地域社会の信頼に応える基幹病院として、医療を求める人々におもいやりの心を持って接し、安心・安全かつ高度で良質な医療を提供します。

▶ Facebookページはこちら



当センターと一緒に働いてみませんか？

**医師事務作業補助者
募集中**

(パートタイム)

詳細なお問い合わせは下記まで
TEL 0288-23-7000 (内線 3204)

編集後記

日光医療センター通信をご覧いただき、誠にありがとうございます。新しい年が幕を開けました。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。吐く息の白さに冬の厳しさを覚えつつも、澄み切った青空や朝日に照らされる霜柱に心が洗われるようです。こたつや温かい飲み物のぬくもりが、冬の喜びを感じさせてくれますね。今号では診療科の紹介や関連病院についてご紹介しました。本年も地域の皆様に信頼される病院を目指して、日々努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。(S.M)

日光医療センター通信 ~いろは~ 第53号

〒321-1298 栃木県日光市森友145-1 TEL 0288-23-7000 (代表) FAX 0288-23-5000
<https://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/>
 発行年月/令和8年1月
 編集・発行/獨協医科大学日光医療センター
 広報・マーケティング委員会
 印刷/株松井ピ・テ・オ・印刷

看護師募集サイトはこちら
<https://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/recruit-nurse/>
 または、右記のQRコードを読み取りアクセスして下さい。